





研究者名※	土屋 智子 TSUCHIYA Tomoko	学位※	修士(英文学) 博士(社会科学、エスニックスタディーズ)
所属※	文学部 英文学科	職名※	准教授
連絡先	tsuchiyat@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	<a href="https://researchmap.jp/read0155463">https://researchmap.jp/read0155463</a>		
研究分野※	地域研究、日米移民史		
研究キーワード※	日系移民、日本女性移民史		
共同研究・競争的資金等の研究課題	「戦争花嫁」移民およびその子供と孫世代に関するオーラルヒストリー研究 (科学研究費、基盤C、研究代表者、2019年～2021年)		
社会貢献・産学官連携活動等	独立行政法人海外移住資料館提携講義『七転び八起き:アメリカへ渡った戦争花嫁物語』の上映と解説 (よこはま国際協力・国際交流プラットフォーム主催よこはま国際フォーラム2016) 文部科学省後援フロムページ主催 国公立大学合同イベント夢ナビライブ講義「多様な人種、文化の国、アメリカを知ろう」(2017年)		
受賞歴			

研究領域	地域研究 (北アメリカ)	(SDGs)	 
研究テーマ※	「戦争花嫁」移民およびその子供と孫世代に関する研究		
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p><b>【研究の背景・目的・内容】</b> 外国に渡った女性移民に関する資料や記録は残りにくいため、日本人女性移民に関する研究はいまだ充分になされていない。このため女性移民史の中でも「写真花嫁」と共に比較的資料が残っている「戦争花嫁」移民に着目し、日本から国外へ渡った日本人女性移民史の構築に取り組んでいる。政治や外交の記録には残りにくい少数派や周縁化されてきた人々の歴史を知る方法としてオーラルヒストリーの手法があり、「戦争花嫁」移民の研究にもこの手法が有用であると考えている。日本の敗戦後に戦勝国の兵士と結婚し国外へ移住した「戦争花嫁」が学術分野で着目されることはしばらくなかったが、女性自身が主体的に語ることにより、女性たちがアメリカ社会、日系アメリカ人コミュニティ、そして日米の懸け橋として活躍してきた姿が明らかになった。</p> <p><b>【研究方法の特色】</b> 「戦争花嫁」の方々が設立した日系国際結婚親睦会に所属し、そこで知りあった移民女性たちの主流社会との関わりや日系社会との関わりをフィールドワークによって考察した。そして、横浜にある海外移住資料館の委託学術研究プロジェクト「海を渡った花嫁たち-日本人女性移民の研究-」の一環で、「戦争花嫁」移民に聞き取り調査を行った。アメリカ本土シアトルで10名、デンバーで8名、ハワイのホノルル周辺で14名、合計32名のインタビューを記録した。インタビューのほかにアンケートも実施した。アンケートは匿名で、日系国際結婚親睦会に所属している会員を中心に、アメリカ本土在住の女性約354名、ハワイ在住の方々35名に送付した。これらの研究成果は、独立行政法人 JICA 海外移住資料館の委託学術研究プロジェクト「海を渡った花嫁たち-日本人女性移民の研究-」(2006年～2008年)の集大成として、2009年10月16日(金)～12月20日の日程で展示の一般公開を行った。この企画展には美智子皇后が訪れて「戦争花嫁」移民の苦労や功績をご確認なされた。</p>		

	<p><b>【応用例、研究の展望】</b></p> <p>「戦争花嫁」移民は現在、多くの女性たちが90歳を超え高齢化している。次の研究段階として、主に、アメリカ本土およびハワイに移住した「戦争花嫁」移民の子供および孫世代に聞き取り調査を行い、彼らのルーツがある日本に関する理解や日本とのつながり方、彼らが持つトランスナショナルな価値観、自己認識の特殊性や類似性を明らかにする。また、次世代がどのように「戦争花嫁」移民の歴史を理解しているのかについても検証する。コロナ禍、渡米しての聞き取り調査が困難を極める中、本研究はドキュメンタリー「七転び八起き：アメリカへ渡った戦争花嫁物語」（“Fall Seven Times Get Up Eight: The Japanese War Brides”）に着目している。「七転び八起き：アメリカへ渡った戦争花嫁物語」は、2015年に「戦争花嫁」移民の娘であるルーシー・クラフト、キャスリン・トールバート、ケレン・カズマウスキーの3人の監督によって制作された。日本女子大学では2016年3月19日に行った学術交流シンポジウムに監督の1人、ルーシー・クラフト氏を招聘してドキュメンタリー上映を行い、制作過程や意義についてご講演いただく機会を設けた。</p>
<p>本研究関連 特許・論文等</p>	<p><b>著書</b></p> <p>① 島田法子、有賀夏紀 他8名、『写真花嫁・戦争花嫁のたどった道—女性移民史の発掘』第6章「ハワイへ渡った『軍人花嫁』—女性自身が語るハワイでの結婚生活」担当（明石書店、2009年）pp.216-246.</p> <p>② 同書、第10章「異人種間結婚の同化力：結婚市場にける人種とジェンダー」ジェニファー・リー 翻訳担当（明石書店、2009年）pp. 273-294.</p> <p><b>論文</b></p> <p>③ 土屋智子、「ハワイへ渡った戦争花嫁：日米の戦後政治の狭間で形成されたイメージと経験」、(『移民研究年報』第12号、2006年) 日本移民学会、pp.155-165.</p> <p>④ Tomoko Tsuchiya, "Japanese Women's Marriages to American GIs under the U.S. Occupation of Japan: Their Silenced Voices and Experiences," (<i>Veritas</i> 51、2007年) pp.57-70.</p> <p>⑤ 土屋智子、『「救済された敵国の女性達」：沈黙が語る結婚の記憶』（『研究紀要』第2号 JICA横浜海外移住資料館、2008年）pp.37-51.</p> <p>⑥ Tomoko Tsuchiya, "Interracial Marriages between American Soldiers and Japanese Women at the Beginning of Cold War," (『アメリカ・カナダ研究』No.29, 2012年) pp.59-84.</p> <p>⑦ 土屋智子、「アメリカ人兵士と日本人女性の恋愛を通して見る戦後の日米関係における『愛』と『解放』の創出」(『多民族研究』第6号、2013年) pp.28-39.</p> <p>⑧ 土屋智子、「アメリカの学問領域における同化理論の考察」(『英米文学研究』第51号、2016年) pp.183-193.</p> <p>⑨ Tomoko Tsuchiya, "Women's Narratives on Their Experience in Bride School"(『英米文学研究』第52号、2017年) pp.65-72.</p> <p>⑩ Tomoko Tsuchiya, "Mixed Blood" Children and their Families in the United States: The Idea of a Racially and Culturally Pluralist Nation at the Beginning of the Cold War," (<i>Nanzan Review of American Studies</i> Vol.40, 2018), pp.23-40.</p>
<p>共同研究・外部機関との連携への期待</p>	<p>・日本から海外へ移住した人々を支援する団体、例えばJICAや横浜の海外移住資料館との連携</p> <p>・国際協力や国際交流を促進する機関との連携</p>